

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：わおわお元住吉保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：神澤 由紀	定員（利用人数）：45（41）名
所在地：〒211-0025 川崎市中原区木月2-17-1	
TEL：044-431-1180	ホームページ： http://www.waowao.or.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2009年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 わおわお福祉会	
職員数	常勤職員：7名 非常勤職員：4名
専門職員	（専門職の名称）：名
	保育士：7名 子育て支援員：1名
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：1歳児室
	（設備等） 設備：調理室
	設備：職員休憩室
	設備：トイレ

③理念・基本方針

<理念>

保育理念：ほめて・みとめて・はげまして～やる気を育て自分で考えて行動する子どもを育てる～

経営理念：子どもの笑顔で世界を変える

<基本方針>

運営方針：保護者、職員、地域に「選ばれる保育園を目指す」

経営方針：・保護者に寄り添い、安心安全な保育を実践します

- ・子どもを地域で支え合い、社会に貢献します
- ・職員がやりがいを感じ充実感に満ち、情熱をもって働ける職場にします

<保育目標>

1. 豊かな人間的ふれあいを通じて“人と人との信頼”の価値と尊さを身につけます。
2. 子どもの社会性を培い、人間性を育むうえで“正しい習慣”を身につけます。
3. 面白いね！ふしぎだね！すごいね！という体験を豊富に積み重ね“創造性の芽生えとやる気”を育てます。
4. “もじ・かず・ことばへの興味や関心”を育てます。
5. 人と人とのつながりを大切に“元気で明るく、笑顔であいさつできる子ども”を育てます。
6. やさしい気持ちを養い、忍耐力・正義感・自制心をもつ、豊かな心を育てます。

7. 命の尊さを知らせ、慈しむ心と感謝の心を育てます。

④施設・事業所の特徴的な取組

〈わおわお元住吉保育園の特徴的な取組〉

- 異年齢児との関わりが多く、年上の子どもたちが自然と年下の子どもたちも受入れ、助けてあげたり、その年上の子どもたちの姿を見て年下の子どもたちも憧れたり、そんな交流を大切にしています。
- 3歳児以上は、週に2回英語あそびの時間があります。外国人教師と一緒に体を動かしたり、歌ったり遊んだりしながら英語に親しみます。
- 戸外でのびのびと体を動かして遊びます。お天気の良い日はお散歩に出かけ、自然と触れ合い、興味関心を育てます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年06月04日（契約日） ～ 2025年03月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2019年度）

⑥総評

【わおわお元住吉保育園の概要】

●わおわお元住吉保育園（以下、当園という。）は、社会福祉法人わおわお福祉会（以下、法人という。）の運営です。法人は、運営方針に「選ばれる保育園」を掲げ、横浜市に6園、川崎市に1園、東京都大田区に1園の認可保育所を運営しています。また、学童保育「ワオキッズ」も川崎・横浜に15園展開しています。保育理念「ほめて・みとめて・はげまして」の下、やる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育てる保育を提唱し、子育て支援の観点から、法人系列各園で地域の「子育てステーション」を目指しています。

●当園は、東急東横線「元住吉駅」から徒歩3分程の綱島街道沿いにあるビル（鉄筋コンクリート3階建）の1階にあり、バルコニーも有しています。交通のアクセスが良いため、活気がある商店街が広がり、タワーマンションも増設され、子育て世代も多い地域です。園から徒歩5分程に「中原平和公園」があり、天気の良い日は四季の変化を感じながら、思いっきり身体を動かして楽しんでいます。

●当園の定員は45名、1歳～5歳児までの保育を実施し、現在41名の園児が在園しています。保育室は子どもの年齢に応じて使用し、ワンフロアという建物の特性を生かした異年齢児保育に力を入れ、子どもたちの「育ち合い」を大切にしています。アットホームな環境の中で、子どもたちの「やってみたい!」という気持ちを大切に、保育理念「ほめて・みとめて・はげまして」の通り、子どもの主体性をほめながら伸ばす保育を展開し、子どもも職員も伸び伸びと楽しく過ごしています。

◇特長や今後期待される点

1. 【異年齢児保育からの子どもの育ち合い】

当園の特長の1つに異年齢児保育への取組が挙げられます。ワンフロアの特性を生かし、日常的に2歳～5歳児が触れ合って遊べる関係です。職員は各年齢に応じたカリキュラムを基に、年齢別保育及び異年齢児保育を職員間の連携の下、子どもたちの状況に合わせて保育を行っています。散歩に出かける際も年長児が年少児の支度を手伝い、優しく手をつないで誘導する場面がみられます。2歳児が困っていると「どうしたの?」と駆け寄

り、その子の表情や言葉から「〇〇したいの?」、「〇〇してほしい?」等々と声をかける姿が年長児はもとより、年中・年少児にも見られます。職員の声かけや指示がなくても自然な流れの中で、子どもたちが判断して行動している姿に驚かされます。日々の生活や遊びの中で、年長児への「あこがれ」や年少児への「いたわり」が培われています。こうした異年齢間の育ち合いは、今後の社会生活の基盤になる「社会性」の育みにつながると言えます。今回の利用者（保護者）アンケートにも「アットホーム感がある」、「異年齢同士で楽しく遊んでいる」、「社会性、感性を身につけて成長している」、「自然と上の子が下の子のお世話や気遣いができている」等々の意見が多く寄せられ、保育への評価が高いことが窺えます。

2. 【子ども主体の保育】

当園の特長に「知育」、「英語」、「リズム遊び」を掲げ、リーフレット等に明記しています。具体的には「知育」では、子どもの実体験（見る、聞く、触れる、感じる等）を通して、「やってみよう!」と自発的な気持ちから学びにつなげています。英語は3歳児クラス以上に週2回、ネイティブスピーカー講師による「英語教室」を設け、自然と英語のリズムや発音が身につくよう取り組んでいます。リズム遊びでは、年齢に応じたリズムを実践し、身体の柔軟な動きにつなげています。職員は常に「子ども主体」の保育を念頭に保育実践し、振り返りの中で「子ども中心に保育が実践できたか」を検証しています。その際に「何をするか」ではなく「どんな姿になって欲しいか」という視点で話し合っています。また、各行事への取組では、子どもが興味・関心を持ったことを遊びの中で展開し、普段の遊びを運動会や発表会で披露しています。今年度の年長児は「お化け」がブームになり、お泊り保育では近所の神社で肝試しを行い、帰園後は職員が準備した「お化け屋敷」を堪能し、大人も子どももワクワク感が溢れ、正に園ビジョン「子どもも大人もみんなで作ろう楽しい保育園」になっています。子ども・職員が気負わず、自然の流れの中で協力し、達成する喜び、充実感が「子ども主体の保育」につながっています。

3. 【食育の推進】

食育を各年齢の年間指導計画・月度指導計画に位置付け、計画に基づき食に関する興味・関心が持てるよう取り組んでいます。当園の給食業務は業者委託ですが、業者と連携を密に取り合い、子どもが食材に触れて形、硬さ、匂い等が感じられるよう季節の野菜を年齢に応じて提供しています。また、プランターで夏野菜を育て、収穫したものを給食で調理してもらい食べる等、食を身近に感じられるよう取り組んでいます。年長・年中児が芋掘りに系列園「わおわお江ヶ崎保育園」まで出かけ、近隣の畑で掘った芋を持ち帰り、給食で蒸してもらい、それを各年齢でつぶしスイートポテトを作り、おやつで食べました。毎月の献立（法人統一）には、月1回郷土料理が盛り込まれ、今年度は世界の料理も提供され、保護者からも「楽しい!」と好評です。給食時には、ワンフロアが食堂に変わり、お腹が空いた子から順次、支度をし、保育士に自己申告しつつ食材を盛り付けてもらい食べています。日々の活動を通して、お腹が空くリズムができ、どの子どもとも意欲的に食べ、食事を楽しみにしていることが感じられます。

4. 【職員定着・地域子育て支援への取組】

当園の運営課題に職員の定着が挙げられています。常勤職員の平均年齢27歳、平均在職年数3年という現状で、若い職員集団で活気があります。反面、途中で退職するケース（3年未満が多い）もあり、平均在職年数が低くなる要因でもあります。調査日のヒアリングに応じた職員2名は、7年、10年と定着し、当園の保育を継承し後進育成に尽力しています。保育業務では今年度よりICT化を図り、業務軽減につながっています。園長は常

に職員とのコミュニケーションを図り、働きやすい環境作りに取り組んでいます。地域子育て支援では、運営方針「選ばれる保育園」の下、当園の中・長期計画を策定、「困ったらふらっと寄ってみようかな?と思える保育園」を目指し段階的に取り組んでいます。まずは、地域に当園を知ってもらい、遊びに来てもらうことを目標に、園舎開放、行事やイベントへのお誘いを積極的に行っています。調査日の翌月予定の「マジカルしゃぼん玉ショー」（保護者会共催のイベント）には、参加希望の問い合わせが多くあり、園のアピールにつながると期待されます。地域の「子育てステーション」を目指した今後の取組に期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 わおわお元住吉保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

第三者評価を受審することで、自己評価を行い、改めて振り返りを行うことで、現在の課題や今後の取組が見えてきた。

職員のチーム分けを行い、年数ごとに確認したことで、どの階層に現在どのような指導や共有すべきこと、できていないことが分かった。

《評価後取組んだこととして》

1. 入園説明会等で、保育目標・保育理念等、保護者へ分かりやすく説明をした。
2. 職員も保護者にも保育理念を目に付くところへ貼る等、周知をする工夫をした。
3. 安全マップ等を現在作成中であり、園外保育の際の安全を意識し、目に見える形に整えた。
4. 地域の子育て支援として園開放を行い、地域の子育て家庭との交流を通じてニーズの把握を行った。引き続き「気軽に立ち寄れる園」を目指して工夫をしていく。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり